

2017年8月25日

矢崎総業株式会社

矢崎 EDS サモアの閉所式を開催

矢崎総業株式会社(本社：東京都港区、社長：矢崎 信二)は、既報の通り、事業環境の変化により 2016 年 10 月にサモア独立国(以下、サモア)での生産終了を決定しましたが、サモア政府並び現地からの従業員との協力を得ながら、本日、現地法人の矢崎 EDS サモア(以下、矢崎サモア)の閉所式を、友好裡に開催しましたことをご報告します。

当社は、1991 年にオーストラリアの生産会社の分工場を設立して以来、サモアで自動車用ワイヤーハーネスの生産活動を行ってきました。初年度は教会や校舎を借りた仮工場での生産でしたが、翌 1992 年にヴァイテレ工場が完成してから本格的な稼働が始まりました。その後、1995 年に矢崎 EDS サモア株式会社として分社化、ピーク時には 3,800 人が自動車用ワイヤーハーネスの生産に従事するまでになりました。

日本とは文化も産業基盤も大きく異なるサモアにおける高い品質と安定した生産の両立は、日本側、現地側の双方が大変な苦労の末に実現したものです。実際、1991 年、及び 2012 年の 2 度の巨大サイクロンによる生産の一時休止を始め、幾度となく直面した問題にも、現地の従業員と一丸となってこれを乗り越えてきました。また生産活動に限らず、過去には市街地へのごみ箱の設置、学校への古本や苗木の寄付など、地域とともにあり続けたいという思いによる様々な活動も地道に実践してまいりました。

こうして矢崎 EDS サモアは、2017 年 6 月に 4 年連続「顧客クレームゼロ」を達成するなど、お客様である自動車メーカーから数々の賞をいただくまでに成長することができました。数々の輝かしい実績は、従業員の地道な努力はもちろんのこと、地元の酋長、サモア政府、サモア国民、そして自動車メーカーとの強い絆があったればこそと考えています。

残念ながら既報の通り、事業環境の変化により 2016 年 10 月にサモアでの生産終了を決定しました。このとき以来、当社のサモアから撤退による同国の社会や経済への影響の緩和、及びサモアの持続的な成長のための支援のあり方について両国の関係者との検討してきた結果、「一般財団法人 矢崎きずな基金」を設立することとしました。

本日、基金設立に向け互いに協力していくことをサモア政府と合意しましたので、下記概要と併せてご報告いたします。

1. 奨学金の給付による教育支援

これからの時代を担うサモアの子女の成長と育成を支援するための、奨学金を給付します。

2. 雇用創出を目指す事業支援

サモアにおける起業家精神を育み、小規模事業の発展を支援するための助成を行います。

なお、寄付金の総額は 10 億円を見込み、2018 年 1 月の正式な設立を目指します。

以上